

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について(送付)

このことについて、令和6年度(2024年度)病虫害発生予察注意報第6号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

令和6年度(2024年度)病虫害発生予察注意報第6号

農作物名 早期水稻
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 早期水稻栽培地域
- 2 発生時期 6月下旬以降
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

- (1) 天草地域における早期水稻の見取り調査(6月17日実施)では、生育ステージが出穂前(幼穂形成終期～穂ばらみ期)にも関わらず、83.3%のほ場(5筆/6筆)で斑点米カメムシ類が確認された。平均寄生頭数は2.2頭/25株と出穂後である7月中旬調査の平年値0.3頭/25株よりも多かった。種構成としては、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、ホソハリカメムシの順で多かった(図1、表1)。
- (2) 6月18日に実施した早期水稻本田内のすくい取り調査では、捕獲ほ場率が天草地域で54.5%(6筆/11筆)、その他の地域では50.0%(6筆/12筆)であり、クモヘリカメムシやミナミアオカメムシ等の斑点米の産出能力が高い種が多く確認された(表2)。また、天草市河浦町の調査では、水田内では斑点米カメムシ類は捕獲されなかったが、畦畔(植生:イネ科雑草)で、多くの斑点米カメムシ類が捕獲された(表3)。
- (3) 早期水稻栽培地域においては、6月下旬～7月上旬に出穂期となるため、斑点米カメムシ類による被害が予想される。
- (4) 6月20日福岡管区气象台発表の九州北部1ヶ月予報では、向こう1ヶ月の気温は平年より高い予想であり、本種の発生に好適な条件となる。



表1 天草地域における早期水稲の見取り調査結果（実施日：2024年6月17日）

地区	種別の寄生頭数(25株当たり)		
	クモヘリ カメムシ	イネ カメムシ	ホソハリ カメムシ
松島①	3	0	0
松島②	0	0	1
本渡①	2	0	0
本渡②	0	0	0
河浦①	3	2	1
河浦②	0	1	0
平均	2.2		
(参考)7月調査平年値	0.3		

表2 すくい取り調査結果（実施日：2024年6月18日）

市町村	地区	種別捕獲数(頭/20回振り)					
		クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	シラホシ カメムシ	イネ カメムシ
上天草市 天草市	松島①	0	1	0	0	0	0
	松島②	0	0	0	0	0	0
	松島③	1	0	0	0	1	0
	松島④	0	0	1	0	0	0
	本渡①	1	0	0	0	0	0
	本渡②	0	0	0	0	0	0
	河浦①	0	0	0	0	0	0
	河浦②	0	0	0	0	0	0
	宮地岳	2	2	0	0	0	0
	有明①	1	0	0	0	0	0
	有明②	0	0	0	0	0	0
平均	0.5	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	
宇城市	三角①	0	0	0	0	0	0
	三角②	0	0	0	0	0	0
氷川町	野津①	0	0	0	0	0	0
	野津②	5	1	1	3	0	0
八代市	鏡町①	0	0	2	0	0	0
	鏡町②	0	0	0	0	1	0
	鏡町③	0	0	1	0	0	0
	群築	0	0	1	0	0	0
	三江湖	0	0	0	0	0	0
玉名市	横島①	0	0	0	0	0	0
	横島②	0	0	0	0	0	0
山鹿市	山鹿	0	0	0	1	0	0
平均	0.4	0.1	0.4	0.3	0.1	0.0	



本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>」

表3 天草市河浦町の本田と畦畔におけるすくい取り調査結果
(実施日:2024年6月18日)

	ほ場 No.	種別捕獲数(頭/10または20回振り)						備考
		クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カメムシ	シラホシ カメムシ	イネ カメムシ	
本田	①	0	0	0	0	0	0	20回振り
	②	0	0	0	0	0	0	20回振り
畦畔	①	6	2	0	4	0	2	10回振り
	②	14	3	0	4	0	1	10回振り

※ほ場No. は表2と同じものを再掲。



図1 現地ほ場でのイネカメムシの発生 (2024年6月17日撮影)

5 防除対策

- (1) 畦畔など周辺雑草の除草は、本田への飛来を助長するため水稻出穂後には行わない。
- (2) 防除適期は、穂揃い期とその7~10日後(乳熟期)である。2回の防除後に生存虫や新たな侵入が認められる場合は、穂揃い期の14~20日後(糊熟期)に追加防除を行う。地域で一斉防除を行うと効果が高い。
- (3) イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期から登熟初期に籾を加害するため、本種の発生が多い場合は、穂揃い期以降ではなく出穂期に防除を行う(図1)。
- (4) カメムシの種類によって薬剤の効果異なるため、発生している種類を確認して、効果の高い薬剤を選定する。ピレスロイド系(IRACコード:3A)はミナミアオカメムシに対して効果が劣る。またネオニコチノイド系(IRACコード:4A)はクモヘリカメムシに対して効果が劣る。
- (5) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物や有用昆虫・魚介類等の環境に影響がないよう農薬飛散(ドリフト)防止に努める。付近にミツバチの巣箱が設置してある園では、事前にその管理者に連絡するなど、農薬による危害防止に努める。



本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>」

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
担当：守田、清永
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493



本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>」